

「食」を学ぶ、「食」から学ぶ国際教育

山口県教育庁社会教育・文化財課
社会教育主事 山本 直

1 はじめに

社会教育主事としての勤務が4年目になった。阿武町教育委員会の派遣社会教育主事のときに地域の活動に関わる中で、「国際教育」という視点でさまざまな取組を行ってきた。阿武町コミュニティ・スクールの仕組みを活かして、中学校の教室で「婦人会英会話教室」を行ったり、敬老会で「アラブの話」の時間をいただいたり、地元のケーブルテレビの広報番組の中で「あぶ nglis h」(英会話番組)を制作したりしたことを紹介してきた。

今回は、「国際教育」の視点を与えるきっかけの一つである「食」を中心に紹介させていただく。

2 実践報告

(1) 公民館事業「ベネズエラの料理に挑戦」

阿武町は、町単独としてALTを雇用して20年以上になる。以前からさまざまな形で地域の「国際教育」にALTは関わってきた。今年度、阿武町のALTは「英会話教室」や「アメリカのカードゲームの紹介」など、地域の大人を対象に講座を開いていた。その中で「ベネズエラの料理に挑戦」という講座があり、早速参加させていただいた。



会話を楽しみながら調理

一緒に作る料理は「アレパス」。ベネズエラの伝統的な家庭料理である。一緒に作る活動を通して地域の方からたくさんの質問が出てくる。

Q「毎日食べるのですか？」

A「一週間に何回も食べます。家庭によって入れる具材は違います。」

Q「中に入れる具材は他にどんなものがあるのですか？」

A「今回は豆を入れましたが、肉を入れたり卵を入れたりします。」

と、自然な形で会話が弾んでくる。言語は英語であったり、日本語であったりする。勿論、スペイン語も教えてもらったりした。現地の調味料にも参加者は興味をもっており、自然な形で会話が弾んでいた。



アレパス

(2) 世界スカウトジャンボリー「地域の食材をとおしての交流」

平成27年に「世界スカウトジャンボリー」が山口県で開催された。その中で「地域訪問プログラム」があり、阿武町にもたくさんのスカウトが訪問した。

さまざまな交流があったが、中でも一番活発に交流をしていた場面は、「地域の食材をとおしての交流」であった。地元の高校生と一緒にゲームを行い、それ



に関わる地元の食材を一緒に食べる。シンプルだが、参加者の表情が一番良かった。

地元の高校生は年齢が近く、すぐに仲良くなり、話が盛り上がっていた。会話の一部を紹介する。

J「このすいかはとても高級なすいかです。いくらぐらいだと思いますか？」

S「私たちの国では、5米ドル（約600円）ぐらいです。」

J「すいか割りで使ったすいかはそのぐらいです。今から食べるすいかはもっと高いです。いくらだと思いますか？」

J「実は、1個40米ドル（約5,000円）します。なぜかというと…。」

S「へえ〜。とても高いですね。とても甘くて美味しいです。」

食材が一つのツールとして、交流のきっかけになっていた。

(※ J…地元の高校生、S…海外のスカウト)



食をとおしての会話

(3) 総合的な学習の時間「マラウイの食べ物を作ってみよう」

平成22年にJICA中国「教師海外研修」に参加し、アフリカの「マラウイ」に行く機会をいただいた。この研修は、夏休みに現地に行き、そこで研修したことを学校の授業の中で活かすというプログラムである。

全体の単元を考えていく中で、子どもたちとの話し合いで「マラウイの料理を作りたい」「マラウイの料理を食べてみたい」という意見があり、単元の一部に入れて取り組んだ。



マラウイの主食「シマ」作り



「シマ」の基本セット

【子どもたちの感想】

- ・指で食べるのが、つらかったです。
- ・初めて作ったけど、おもったよりうまくできました。また作ってみたいです。
- ・シマはもちのにおいがしました。肉とすごく相性がよかったです。
- ・シマはパンのような感じかと思ったけど、もちのような味がしたのでびっくりしました。

マラウイの主食「シマ」を食べることで、関連してマラウイの話をするのができた。見るのと実際に食べるのでは、子どもたちに伝わるものが大きく

変わってくる。また教職員にも食べてもらい、教職員もマラウイについて知るきっかけの一つになった。

(4) 総合的な学習の時間「マラウイの人に日本の食べ物を紹介しよう」

子どもたちとの話し合いの中で、「マラウイの人に会ってみたい」「マラウイの食べ物を作って食べてマラウイのことが少し分かったので、マラウイの人に日本の食べ物を紹介したい」という意見があり、単元の一部に入れて取り組んだ。



一緒に「おにぎり」作り



「食」がきっかけで笑顔での交流

【子どもたちの感想】

- ・フローレンスさんがラップで包んでくれたのがうれしかったです。
- ・おにぎりの作り方を教えてあげると、うまくトライアングルの形になっていたのび、びっくりしました。チムウエムウエムさんは、小さいころから親の手伝いをやっていたと聞きました。
- ・「ライスボールホットやってみますか？」と教えました。
- ・おにぎりを作るのが、ものすごくうまかったのびびっくりしました。将来マラウイに行ってみたいです。

「言葉が通じるかな?」「どんな人がくるのかな?」と不安と期待でいっぱいの子もたちだった。しかし二人の明るい人柄と、食文化を通しての交流で子どもたちの不安は一気に解消され、本当に有意義な時間となった。

3 まとめ

社会教育主事として「国際教育」という視点で地域の活動に関わり、また、学級担任として「国際教育」という視点での授業づくりを行ってきた。さまざまな形のアプローチがあるが、その国のことを知るには、その国の「食」を学ぶことが大切であると考え。その国を身近に感じるきっかけの一つになるといえる。

また「食」を学ぶだけでなく「食」から学ぶことも多くあると考える。会話が弾み、お互いを知るきっかけにもなり、「食」が一つのツールになっているといえる。

「国際教育」の視点を与えるきっかけになった「食」。今後も機会を捉えて、「『食』を学ぶ」「『食』から学ぶ」を進めていきたいと思う。

